

地域連携誌「かざぐるま」発刊1年を経過して

地域医療機関の皆様 必要とされる医療を

札幌市病院事業管理者
市立札幌病院院長
吉田 哲憲



市立札幌病院地域連携センター広報誌「かざぐるま」は2009年6月に第1号が発刊され、皆様のご理解とご協力のもと、お陰様で、誕生後1年を迎えることができました。

この1年は医療を取り巻く環境が大きく動いた1年でもありました。昨年8月の総選挙で「崖っぷち日本の医療、必ず救う！」をキャッチフレーズとした民主党が圧勝し、政権交代が行われました。しかし、政権誕生から1年もたっていない今年7月に行われた参議院選挙では、民主党は国民の信を得ることができず、惨敗いたしました。「コンクリートから人へ」、「命が大切」という言葉が既に遠い過去の掛け声のように感じられる昨今であります。

医療機関に直接関係する平成22年度の診療報酬改定は、僅かではありますが、総体で0.19%の引き上げとなりました。この数字は昨年の選挙中に民主党が言っていた1点12円あるいは11円への引き上げと比べますと、とても満足できるものではありませんが、それでも、医療費引き下げ一辺倒で、医療崩壊に追い込

んだ自民党小泉政権よりはまだまだし、と今後に期待していたところでありました。しかし、普天間基地問題で明らかとなった新政府の政策実行力の無さや発言に対する責任の無さに加え、今回の参議院選挙の結果を見ますと、医療界が抱いていた僅かの期待が今後どうなるのか、まったく予断を許さない状況となってしまいました。このような政局激動、不安定な世の中ではありますが、市立札幌病院におきましては、懸案であった精神科病院である静療院の成人部門の本院統合が決定し、精神科救急、身体合併症をもった精神科患者さんへの対応に積極的に取り組むことといたしました。具体的には今年度、基本設計を行い、来年度には新病棟建築、そうして、平成24年度診療開始というスケジュールになっております。

地域完結型医療の一端を担い、地域の医療機関の皆様が必要とされる医療を進めていくため、一層の連携強化に努めて参りますので、ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞ、宜しくお願い申し上げます。

